

これからの 普及啓発のカタチ

～クマのことを広めるコツ～



開催日時

2022年1月29日(土)
13:30～16:30
(接続は13:00～)

開催形式

Zoomによる
オンライン参加・無料
(事前登録制)



学校教育 岡崎弘幸さん

1958年東京都出身。都立、私立中高に43年勤務。生物部の生徒たちと高尾山を中心に、多摩の山地、丘陵地でムササビや野生動物の観察・調査を行っており、生徒たちからはムササビ先生と呼ばれている。日本哺乳類学会、日本生物教育学会所属。



社会教育 浅岡永理さん

1991年愛知県出身。大学で環境教育を学び、現在、環境教育学会でダイバーシティ推進委員会副委員長および広報委員会委員を務める。また(公財)日本自然保護協会にて勤務し、こどもから大人まで幅広い対象に自然保護教育を実践。



SNS あまり(WoWキツネザル)さん

富山県出身。MCあまり/MC WoWキツネザルとして、一人で全く異なる二つのキャラを使い分けるスタイルで全国で活動中。WoWキツネザルは環境系エンターテイナーとしてTwitterやyoutube、Tiktokで発信をしている。リアルイベントの絶滅体験レストランの主催も行っている。

締切：1月27日(木)

URL：<https://bit.ly/3F2ZF7U> あるいはQRコードよりご登録ください。
シンポジウム前日までに、ご登録いただいたメールアドレスにご案内をお送りします。



これからの普及啓発のカタチ

～クマのことを広めるコツ～



近年、「アーバンベア」と呼ばれる市街地に出没するクマが社会的問題となっています。クマの人身事故を減らすためには、市街地にクマを出没させない仕組みづくりがなによりも大切ですが、私たち一人ひとりがクマに対する正しい知識を身に付け、周りに広めていくことも重要です。日本クマネットワークでは、これまでベアートランクキットの貸出やワークショップの開催、HPやFacebookなどからの情報発信などを通じてクマの普及啓発を行なってきました。しかし、クマ問題を解決するには、既存の取り組みの枠を超えて、より一層普及啓発を広げていかなくてはなりません。各方面で普及啓発を行なっている方々の事例を参考に、これから私たちにできることを一緒に考えてみませんか？



プログラム

JBN紹介・開催趣旨	佐藤喜和 / JBN代表・酪農学園大学
アーバンベア問題とJBNの取り組み	小池伸介 / プロジェクト代表・東京農工大学
JBNが今まで取り組んできた普及啓発について	中島亜美 / JBN普及啓発委員
学校教育における野生動物を調べる体験の取り組み	岡崎弘幸 / 中央大学附属中学校・高等学校教諭
自然保護につながる社会教育活動の実践	浅岡永理 / (公財) 日本自然保護協会
無関心を倒す方法 ～環境系エンターテイナーのSNS活用法～	あまり (WoWキツネザル) / MAD MANAGEMENT

～休憩～

総合討論「クマの普及啓発を進めていくためにどのようなことができるか」

コーディネーター 小林喬子 / (一財) 自然環境研究センター

主催

日本クマネットワーク (JBN)

後援

公益財団法人日本自然保護協会 (NACS-J)、公益財団法人東京動物園協会



問合せ先

日本クマネットワーク アーバンベアプロジェクト窓口
(Mail: urbanbearjbn@gmail.com)

本シンポジウムは、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。

